IFRS S1号及びIFRS S2号
現在の及び予想される財務的影響

パート2／全2回

ISSBテクニカルスタッフ ガブリエル・ベネディクト
ISSB副議長 スー・ロイド

このプレゼンテーションで示される見解は発表者のものであり、必ずしもIFRS財団、国際会計基準審議会（IASB）又は国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の見解ではありません。
Copyright © 2024 IFRS Foundation. All rights reserved.

始める前に…

- 本ウェブキャストは、IFRS S1号及びIFRS S2号（以下「ISSB基準」という。）の「戦略」の内容の一部を対象としている。したがって、ISSB基準の全文とあわせて考慮されるべきである
- ISSB基準及び関連資料は、当財団のウェブサイト（www.ifrs.org）に掲載されている
- 示されている見解は発表者のものであり、必ずしもISSB又はIFRS財団の見解ではない

セッションの概要 – 現在の及び予想される(anticipated) 財務的影響(effects)

パート1

- 全般的な(overarching)要求事項
- 当報告期間
- 翌年次報告期間

パート2

- 短期、中期及び長期にわたって
- 適用を促進するためのメカニズムと、プロポーショナリティに対処するためのメカニズム

学習目標

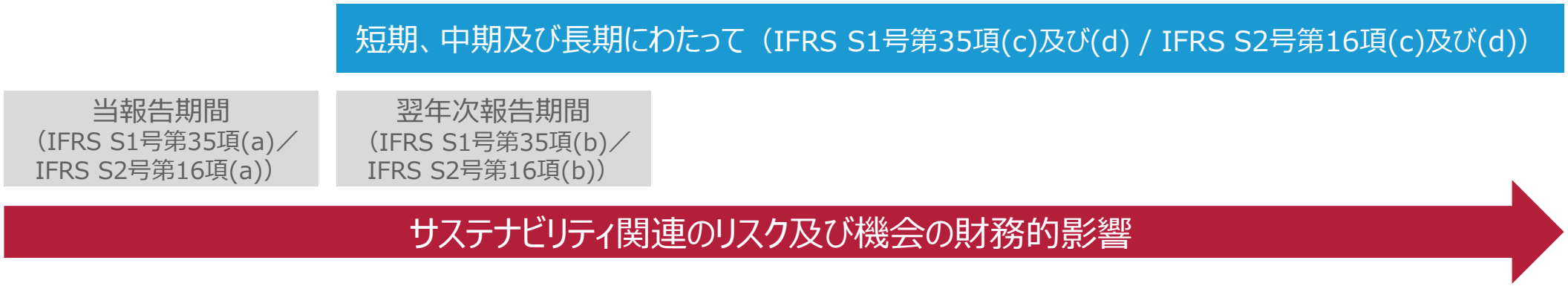
現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する要求事項、並びに、サステナビリティ関連のリスク及び機会を管理するための企業の戦略に関する有用な情報を提供する方法を理解する

予想される(anticipated)財務的影響(effects)

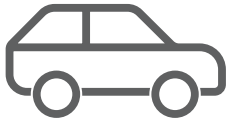
IFRS S1.35(c)(d)
IFRS S2.16(c)(d)

短期、中期及び長期にわたり企業が見込む影響(effects)に関する、次についての定量的及び定性的情報

- 企業の投資計画及び処分計画、並びに資金源(sources of funding)を考慮した、企業自身の財政状態
- サステナビリティ関連のリスク及び機会を管理するための企業の戦略を踏まえた、企業自身の財務業績及びキャッシュ・フロー



例5：IFRS S1号第35項(c)(d) 及び IFRS S2号第16項(c)(d)の要求事項



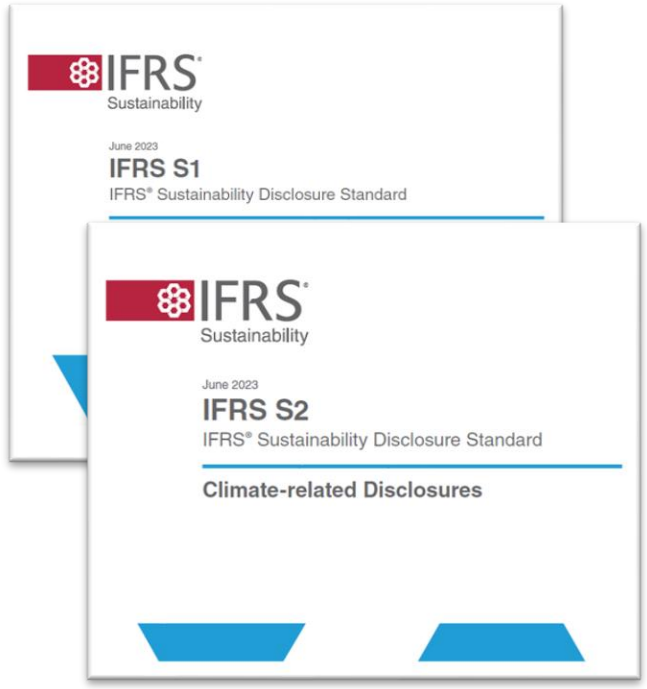
5年間の移行計画

	現在	予想される(anticipated)（2年から5年）
サステナビリティ関連財務開示	• 報告期間における財政状態、財務業績又はキャッシュ・フローに影響を与えていない	• 燃料コストの削減のほか、企業の事業において用いられる新車及び充電ポイントの1年当たりの資本的支出に関する定量的情報 • サステナビリティ関連のリスク及び機会並びに移行計画に関する定性的情報、また、計画を実施するために新たな資金源が必要となるかどうか

短期、中期及び長期の決定

TCFD

時間軸は定義されていない



時間軸は定義されていない

例6：短期、中期及び長期の決定

生鮮品

短期 | 中期 | 長期

ソフトウェア

短期 | 中期 | 長期

採掘及び探査

短期 | 中期 | 長期

適用を促進するためのメカニズムと、プロポーショナリティに対処するためのメカニズム

現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)の**両方に**適用されるメカニズム

予想される(anticipated)財務的影響(effects)に**のみ**適用される、プロポーショナリティのメカニズム

適用を促進するためのメカニズム

サステナビリティ関連のリスク又は機会の影響(effects)を区別して識別できないか

又は

測定の不確実性の程度は、定量的情報が有用でないほど高いのか

IFRS S1.38
IFRS S2.19

IFRS S1.40
IFRS S2.21

はい

次の場合、定量的な情報を提供する必要はない
- 定量的情報を提供していない理由を説明する
- 定性的情報を提供する
- 複合的な財務的影響に関する定量的情報の提供する

いいえ

IFRS S1.36
IFRS S2.17

サステナビリティ関連のリスク又は機会に関する現在の又は予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する定性的情報 及 び 定量的情報を、単一の金額又は範囲を用いて提供する

例7：適用を促進するためのメカニズム

気候関連の移行リスク

影響(effects)

ディーゼル車の販売による
企業の売上高が減少した

影響(effects)を区別して識別できず、測定の不確実性の程度が高い

消費者需要の変化

**売上高における
その他の減収要因**

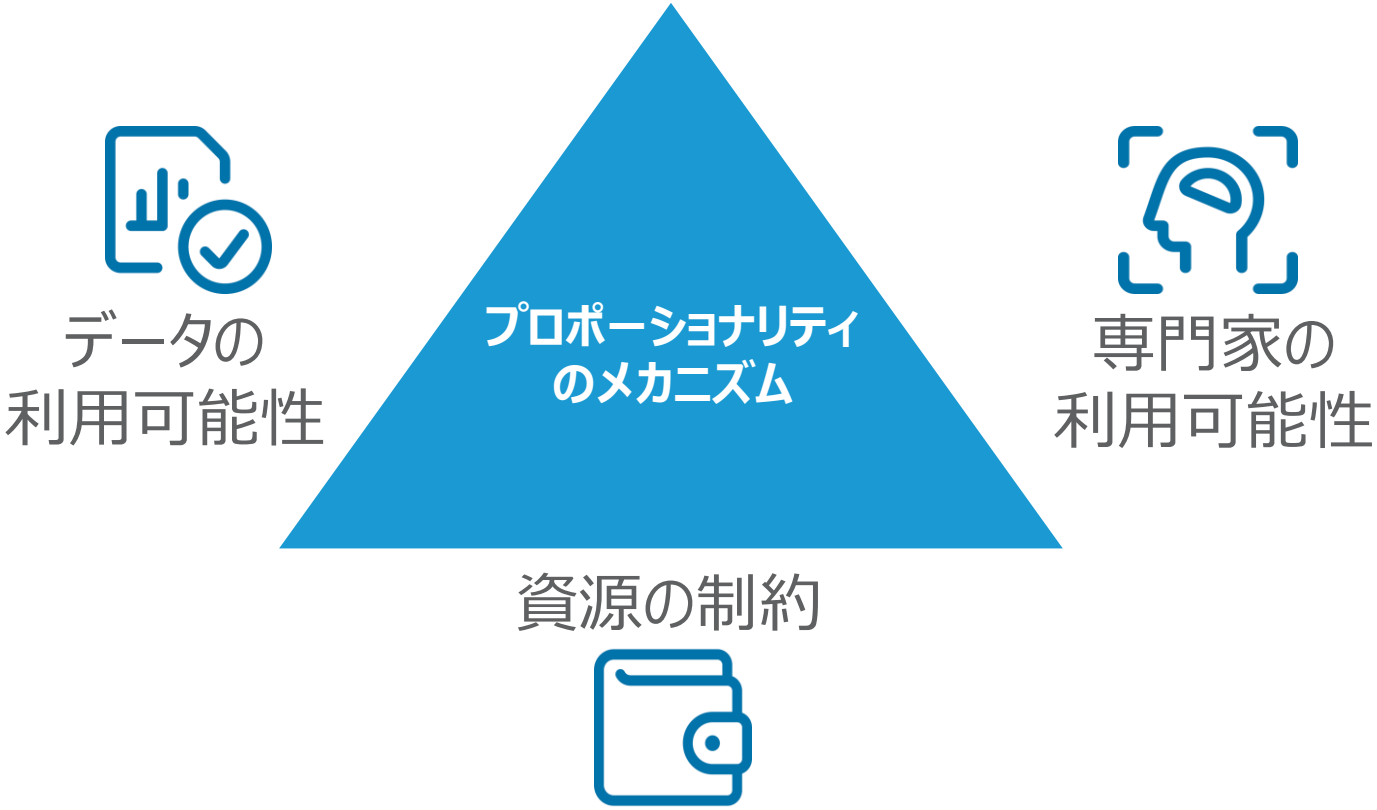
財務的影響(effects)

- 当報告期間における売上高の減少ではあるものの、定量的又は定性的な開示はない

サステナビリティ関連財務開示

- 定量的情報が提供されなかった理由を含む、定性的情報
- 影響を受けた行項目、合計及び小計に関する定性的情報
- 有用でないと判断される場合を除き、複合的な財務影響(effects)に関する定量的情報

報告の課題 – プロポーショナリティのメカニズム



プロポーショナリティのメカニズムに対する考慮事項 – 予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する開示の作成

報告日時点で過大なコストや労力をかけずに利用可能な、すべての合理的で裏付け可能な情報を用いる

IFRS S1.37(a)
IFRS S2.18(a)

- 合理的で利用可能なすべての情報（用いるにあたり適切な裏付けがあり、報告日時点で利用可能である）を考慮する
- 網羅的な(exhoustive)労力は必要ない。しかし、一切労力は必要ないと主張することはできない

IFRS S1.37(b)
IFRS S2.18(b)

利用可能なスキル、能力(capabilities)及び資源に見合ったアプローチを用いる

- 社内外のスキル、能力(capabilities)及び資源を用いる
- 資源が利用可能であれば、必要なスキル及び能力(capabilities)の入手又は開発に投資できる

プロポーショナリティのメカニズムの考慮事項 –
予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する定量的情報

企業は、予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する定量的情報を提供するためのスキル、能力(capabilities)及び資源を有しているか

IFRS S1.39
IFRS S2.20

いいえ

次の場合、定量的な情報を提供する必要はない
- 定量的情報を提供していない理由を説明する*
- 定性的情報を提供する*
- 複合的な財務的影響に関する定量的情報の提供する*

IFRS S1.40
IFRS S2.21

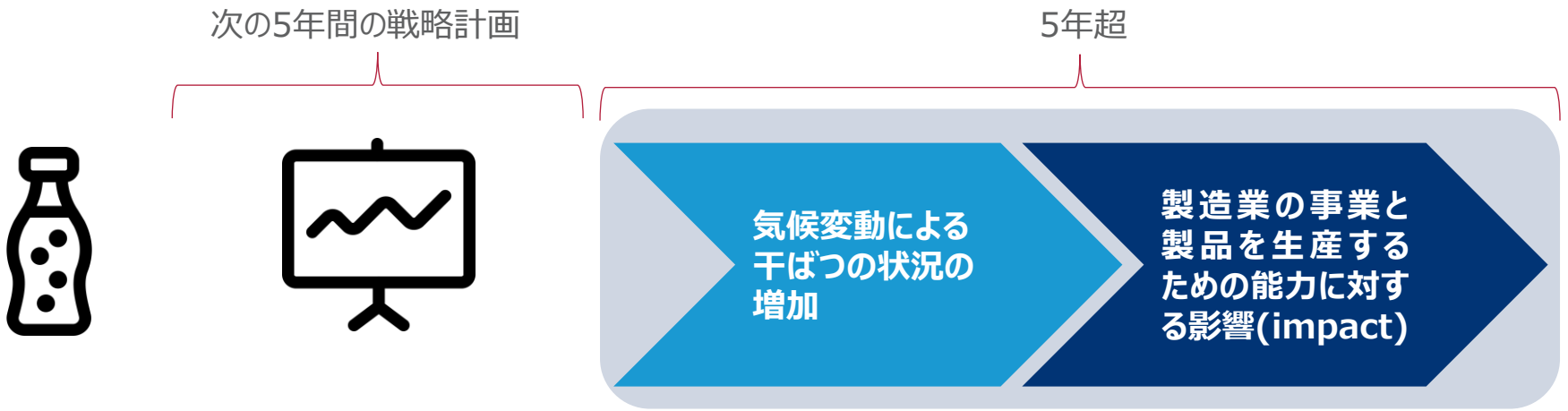
はい

サステナビリティ関連のリスク又は機会に関する予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する定性的情報及び定量的情報を、単一の金額又は範囲を用いて提供する

IFRS S1.36
IFRS S2.17

*これらの要求事項は、「適用を促進するためのメカニズム」のスライドと同じである

例8：プロポーショナリティのメカニズムの考慮事項



サステナビリティ関連財務開示

- 定量的情報が提供されなかった理由を含む定性的情報
- 有用でないと判断される場合を除き、複合的な財務的影響(effects)に関する定量的情報

主要なポイント

1) 現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)の開示の要求事項は、不必要な重複を避け、関連する財務諸表において提供される情報とつながり、補完し、又は拡充する情報を引き出すために設計されている

2) 現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)について、定性的情報及び定量的情報の両方を組み合わせることが、投資意思決定を行うにあたり最も有用である

3) 適用を促進するためのメカニズムや、プロポーショナリティに対処するためのメカニズムを適用するにあたり、どのような情報が要求されるのかを理解する

    a. これらのメカニズムは、意思決定に有用な情報の必要性と、その情報を提供するコスト及び複雑さの間のバランスをとるために設計されている

    b. 企業は、現在の及び予想される(anticipated)財務的影響(effects)に関する定量的情報を提供する必要がない場合について、特定の条件を満たすかどうかを決定する際に、判断を適用する必要がある

IFRS Sustainability

オンラインでのフォロー

ifrs.org

@IFRSFoundation

IFRS Foundation

International Sustainability Standards Board